

1. 入院診療実績の報告対象期間の通年化

- 病床機能の分化・連携に向けてさらに議論を深めていくために、手術等の診療実績に着目することが重要となる中、1ヶ月分の実績だけでは季節変動等の要素が影響することが懸念されることから診療実績の報告が通年化される。

令和2年度まで

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

報告対象（6月分）
※一部項目（新規入棟患者数・救急車受入件数等）は前年7月～6月が対象

医療機関による
報告時期

令和3年度以降

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

報告対象（診療実績の通年化）
※従来1年分（前年7月～6月）の実績報告を求めていた項目についても、前年4月～3月に報告期間を変更

医療機関による
報告時期

2. 各病棟におけるコロナ対応状況の追加

- 令和3年度病床機能報告を地域医療構想調整会議等における協議で用いる際には、新型コロナ対応のため、臨時的な増床を実施している医療機関、コロナ患者の受入れに備えた空床確保や感染管理・人員確保等のための休床を実施している医療機関があることに留意する必要がある。
- 一般的な公表は行わないことを前提に、一般医療に関する状況（病床利用率、病棟ごとの診療実績等）について、新型コロナ対応を実施している病棟以外の病棟に関する分析を行うことができるよう、以下のとおり報告項目を追加。
「①コロナ患者対応」、「②コロナ患者対応のため休棟・休床」、「③コロナ回復後患者の受入」、「④それ以外（地域における役割分担の協議を踏まえた一般医療の提供など）」の4つから、該当するものを選択（複数選択可）

3. その他

- 「稼働病床数」を「最大使用病床数」へ名称変更し、任意項目として「最小使用病床数」（過去1年間に最も少なく入院患者を収容した時点で使用した病床数）を追加
- 電子による報告の推進（令和5年度報告より原則、電子による報告とする予定）